

日本の自己と、他者

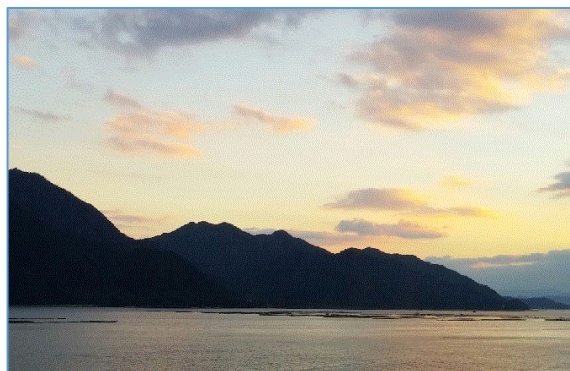
精神分析、アジア太平洋地域、トラウマ・罪悪感

日時 2020年2月2日(日曜日)13時30分～16時30分
会場 国際基督教大学 国際会議室(東ヶ崎潔記念ダイアログハウス 2F)

国際精神分析協会(IPA)の地域区分として、これまでのヨーロッパ、北米、南米に加えて、日本を含む「アジア太平洋地区」が加わることになりました。これを受けて2020年に行われるアジア太平洋地区のシドニー大会で「アジア太平洋における自己と他者」という内容でパネルディスカッションが企画されています。アジア太平洋地区でIPAの傘下組織がある日本、中国、台湾、韓国、インド、オーストラリアから代表者を募り、臨床家どうし意見を交換する予定です。国名を見ると、この地域の国々は互いに敵と味方に分かれて戦った歴史を抱えていると言えます。精神分析的な臨床家は、地域のトラウマと罪悪感の問題にどのように取り組むことができるのでしょうか。

日本における試みとして、精神分析的な臨床家による討論の場を設けたいと企画されたのが、このシンポジウムです。まずは「日本(人)の自己」がアジア太平洋地区の国々の方に代表される他者に出会うときに何が起きるのか、臨床家が集まっているいろいろと考えてみることから始めたいと思っています。

企画: 荻本快・北山修



シンポジスト 北山 修 (北山精神分析室、元国際基督教大学客員教授)
吾妻 壮 (上智大学 教授)
東畑 開人 (十文字学園女子大学 准教授、白金高輪カウンセリングルーム)
西村 馨 (国際基督教大学 上級准教授、教育研究所 所長)
指定討論 笠井さつき (帝京大学心理臨床センター 准教授)
司 会 荻本 快 (相模女子大学 准教授、国際基督教大学教育研究所 研究員)
石川与志也 (ルーテル学院大学 准教授)

対 象 精神分析的な臨床家(定員:80名)

参加費 無料

申し込み先 ipasia2020@gmail.com

メールの本文中に①お名前、②ご所属、③資格をご記入ください

締め切り 1月23日(木)正午

主催: 国際基督教大学 教育研究所

このシンポジウムは「相模女子大学特定研究費 A(2019年度)」の助成を受けています